

1 時間

水面で光はふたつに分れる
人は佇むだろうが
それにしても皮肉なのは映像だ
夕暮れに影は長く、そして遠い
走り抜ける子供は幼く
ピトレスクな哀しみが斜陽を浴びる
全ては強く生きてるように見えるが
ただ耐えているようにも見え
でもそれが何だと言うのだろう
全ては俺と共に在りうる
対岸をのびのびと気ままに嗅ぎ回る犬
細かく枝を張りめぐらす木々
風に細かくふるえる草々
流れる水
今その目の前で日は沈む
そのことだけで十分だ
今日も、そして明日も

(1987.4.5)